

(様式第 10)

伊総第 14—221号
平成 26年 10月 4日

厚生労働大臣

殿

学校法人 東海
開設者名 理事長 松前

東海大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4
氏 名	学校法人 東海大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東海大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 1 4 3	電話(0463)93-1121(代)
--------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科 2呼吸器外科 3消化器外科 4小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液腫瘍内科	2 リウマチ内科	3 腎内分泌代謝内科	4 総合内科
5 乳腺内分泌外科	6 画像診断科	7 リハビリテーション科	8 臨床検査科
9 緩和ケア科	10 病理診断科	11 救命救急科	12 移植外科
			13 形成外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	804床	804床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	481人	138人	499.7人	看 護 補 助 者	170人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	19人	14人	20.8人	理 学 療 法 士	23人	臨床検査技師	141人
薬 剤 師	67人	3人	69.2人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	28人	0人	28.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	940人	55人	977.9人	臨 床 工 学 技 士	29人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯 科 衛 生 士	6人	0人	6.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	195人
管 理 栄 養 士	14人	0人	14.0人	診 療 放 射 線 技 師	72人	そ の 他 の 職 員	0人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼 科 専 門 医	6人
外 科 専 門 医	39人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	13人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	16人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	13人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	17人
		合 計	209人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	775人	14人	789人
1日当たり平均外来患者数	2,544人	101人	2,645人
1日当たり平均調剤数			1,763剤
必要医師数			224人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			472人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病床数		心電計	
集中治療室	710.74 m ²	鉄筋コンクリート造（免震）	病床数	32床	心電計	（有）・無
			人工呼吸装置	（有）・無	心細動除去装置	（有）・無
			その他の救急生装置	（有）・無	ペースメーカー	（有）・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 159.36m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	13床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 78.9m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	375.52m ²	鉄筋コンクリート造（免震）	（主な設備）臨床化学多項目自動分析装置			
細菌検査室	199.38m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	（主な設備）細菌自動分析機			
病理検査室	284.68m ²	鉄筋コンクリート（免震）	（主な設備）ホルマリン対応型切出台・流し台			
病理解剖室	131.40 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	（主な設備）ホルマリン対応型流し台・解剖台			
研究室	10689m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	（主な設備）細菌自動分析機、細菌自動分析機			
講義室	1256.1m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	8 室	収容定員	810 人
図書室	2099.45m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	182,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年8月1日～平成26年8月31日	
紹介率	68.4 %	逆紹介率	49.3 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			1,882 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			1,727 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			514 人
D: 初診の患者の数			3,502 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検(早期胃がん)	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であってHER2が陰性のものに限る)	5人
上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用カルボプラチン3週毎腹腔内投与	6人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	81人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	77人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	98人	・原発性胆汁性肝硬変	59人
・全身性エリテマトーデス	366人	・重症急性膵炎	12人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	38人
・再生不良性貧血	99人	・混合性結合組織病	66人
・サルコイドーシス	44人	・原発性免疫不全症候群	12人
・筋萎縮性側索硬化症	25人	・特発性間質性肺炎	29人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	201人	・網膜色素変性症	23人
・特発性血小板減少性紫斑病	137人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	44人	・肺動脈性肺高血圧症	9人
・潰瘍性大腸炎	280人	・神経線維腫症	16人
・大動脈炎症候群	29人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	23人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	56人	・ライソゾーム病	9人
・クローン病	106人	・副腎白質ジストロフィー	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	21人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	249人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靭帯骨化症	58人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	44人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェグナー肉芽腫症	18人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	29人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	21人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	72人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・救命救急入院料3・4
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・特定集中治療室管理料4
・臨床研修病院入院診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母胎・胎児、新生児)
・救急医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2・4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・診療録管理体制加算1	・
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・遺伝カウンセリング加算
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病合併症管理料	・埋込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料1・2	・胎児心エコー法
・外来緩和ケア管理料	・ヘッドアップティルト試験
・移植後患者指導管理料2	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・神経学的検査
・院内トリアージ実施料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・地域連携診療計画管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算1・2
・認知症専門診断管理料	・遠隔画像診断
・肝炎インターフェロン治療管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1・2	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外傷CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・大腸CT撮影加算
・在宅血液透析指導管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算Ⅰ・Ⅳ	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2
・がん患者リハビリテーション料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・経皮的冠動脈形成術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・透析液水質確保加算2	・経皮的冠動脈ステント留置術
・一酸化窒素吸入療法	・経皮的中隔心筋焼灼術
・歯科技工加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・補助人工心臓
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的大動脈遮断術
・上顎洞形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・ダメージコントロール手術
・体外衝撃波碎石破砕術	・体外衝撃波胆石破砕術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下肝切除術
・体外衝撃波腎・尿管破砕術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・生体腎移植術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・輸血適正使用加算	・輸血管理料Ⅰ
・内視鏡手術用支援機器加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・麻酔管理料(Ⅱ)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・外来放射線治療加算	・放射線治療専任加算
・1回線量増加加算	・高エネルギー放射線治療
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・対外照射呼吸性移動対策加算

・病理診断管理加算2	・定位放射線治療
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・歯周組織再生誘導手術	・歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくてもよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 48例 / 剖検率 6.10%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
慢性腎臓病進行の機序	松阪 泰二	腎・代謝内科学	7,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
鳥・航空機および鳥・鳥無線通信による鳥インフルエンザモニタ網の基礎研究	中島 功	救命救急医学	14,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
血小板細胞の構成論的理解による心筋梗塞発症メカニズムの理解と制御法の開発	後藤 信哉	循環器内科学	2,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
造血幹細胞ニッチを標的とした新規白血病治療法の開発	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	5,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
医療用携帯電話の細菌汚染と使用背景に関する調査研究	金子 明寛	口腔外科学	500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
漢方薬の分子基盤の構築と臨床応用	新井 信	神経内科学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
臨床応用を考慮したRNA干渉法による副甲状腺ホルモン産生制御法の開発	田中 礼佳	腎・代謝内科学	800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
新規ヒト骨髄微小環境マウスを用いた多発性骨髄腫モデルの確立と病態解析	六車ゆかり	血液・腫瘍内科学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
カルシウムイオンナノレベルイメージングによる血小板内活性化機能に関する研究	田村 典子	循環器内科学	100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
皮膚筋炎発症におけるCADM-140抗原(MDA5)の病的役割の追究	佐藤 慎二	リウマチ内科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
腎障害の進展における酸化防御機構の関与	新村 文男	小児科学	1,100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
軽度認知機能障害から認知症への移行を臨床情報と画像所見から予測する識別器の作成	橋本 順	画像診断学	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
前立腺癌に対するヨウ素125密封小線源療法後のPSAパワンスを予測する研究	菅原 章友	放射線治療科学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
過去症例のCT及び3D線量分布変形手法による重複再照射許容性の定量的評価法の確立	秋庭 健志	放射線治療科学	700,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
消化器癌の血清DNA断片を標的とした悪性度に関する遺伝子診断法の基礎的臨床的検討	小澤 壯治	消化器外科学	500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
MRI情報に基づいた脳腫瘍に対する温熱・化学療法の新規創生	松前 光紀	脳神経外科学	1,100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
Dセリン代謝関連酵素とモルヒネ鎮痛耐性形成との関連に関する研究	伊藤 健二	麻酔科学	1,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
子宮腫瘍(体癌・頸癌)及び子宮内膜における糖鎖発現・機能とその臨床応用	三上 幹男	産婦人科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
子宮体部明細胞腺癌における新たな発癌プロセスと創薬	平澤 猛	産婦人科学	500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
プラズマ技術を用いた表面形状・薬剤徐放制御による大動脈ステントグラフト材料の開発	長谷部光泉	画像診断学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
造血幹細胞移植後肺合併症とレニン・アンギオテンシン系	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
関節リウマチ骨破壊に果たすTh17細胞関連サイトカインの役割	鈴木 康夫	リウマチ内科学	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
抗菌活性を持つ培養皮膚の生体内における機能の解析	猪口 貞樹	救命救急医学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
椎間板線維輪再生に向けた至的細胞ソースの解析研究	酒井 大輔	整形外科	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
吸入麻酔薬セボフルランの鎮痛作用に関する研究	金澤 正浩	麻酔科学	1,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
多能性幹細胞移植による頭頸部癌術後機能回復のための再生医療の研究	大上 研二	耳鼻咽喉科学	1,400,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
肘部尺骨神経障害の電気診断検査法	児玉 三彦	リハビリテーション科学	2,900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
嚥下時の舌骨・喉頭挙上を改善する等尺性開口筋訓練法の確立	小山 祐司	リハビリテーション科学	1,800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症発症機序におけるイノシトール6リン酸キナーゼの役割	永田栄一郎	神経内科学	1,100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
高学習能ラットを規定する分子制御機構の包括的解析	吉井 文均	神経内科学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
LC-MSMSによるアコニチン、アマニチン、テロトキシンの一斉分析法の開発	斉藤 剛	救命救急医学	1,800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
慢性閉塞性肺疾患の感受性遺伝子の網羅的同定と機能解析	青木 琢也	呼吸器内科学	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
カルボニルストレス軽減・腹膜透析患者腹膜底保護薬「ピロキサミン」の開発	角田 隆俊	腎・代謝内科学	2,800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
透析患者の診療内容、バイオマーカーと予後に関する大規模観察研究の計画	深川 雅史	腎・代謝内科学	2,500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
メタボローム解析による重症喘息の分子フェノタイピング	浅野浩一郎	呼吸器内科学	1,500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
胎児胎盤系膜系の母児連関に関与する因子と作用機構の解明	石本 人士	産婦人科学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
金ナノ粒子増感効果による超適応治療に向けての基礎研究	小松 哲也	放射線治療科学	1,900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
移植腎Klothoの腎移植後ミネラル代謝における役割と腎・生命予後への影響	中村 道郎	移植外科学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
損傷脊髄の再髄鞘形成に対するアミロイドの効果(小胞体ストレス応答能増強による)	渡辺 雅彦	整形外科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
低酸素によるがん疼痛に関する研究	安心院純子	麻酔科学	1,900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌における真に有用な分子標的薬耐性マーカーの開発	山崎 浩史	口腔外科学	1,900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
重粒子線を用いた致死性心室性不整脈の新規治療開発	網野 真理	救命救急医学	800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
川崎病の冠動脈病変と酸化ストレス	菅沼 栄介	小児科学	800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
細胞シートによる関節軟骨損傷治療法の開発	小久保 舞美	整形外科学	1,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
神経因性疼痛におけるDセリンの作用	伊藤 美保	麻酔科学	700,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
乾癬における $\gamma\delta$ T細胞の働き	馬淵 智生	皮膚科学	1,500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
電子飛跡検出型コンプトンカメラによる次世代ガンマ線カメラの開発	株木 重人	放射線治療科学	1,100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
椎間板における血管内皮増殖因子(VEGF)の機能解析と椎間板変性症の病態解明	檜山 明彦	整形外科学	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
治療の個別化を視野に入れた新たな卵巣明細胞腺癌治療への可能性	宮澤 昌樹	産婦人科学	1,700,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
口腔癌に対するクロノセラピーの応用ー特にメルトニンを用いた人為的位相についてー	大鶴 光信	口腔外科学	1,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
呼吸性移動腫瘍に対する四次元放射線治療における投与線量検証システムの開発	藤田 幸男	放射線治療科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
抗HER2抗体エピトープペプチドワクチンのヒト化マウスを用いた有効性の検討	津田 万里	乳腺・内分泌外科学	1,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
回転セリウム微小血管造影装置での心筋再生医療効果判定	田中 千陽	心臓血管外科学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
椎間板由来、体性幹細胞を用いた末梢神経再生における基礎的研究	石井 崇之	整形外科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
抗VEGF抗体関節内投与による関節治療の可能性	長井 敏洋	整形外科学	2,000,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
血管形成能を有する複合型培養皮膚の開発	今川孝太郎	形成外科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
早期喫煙暴露とCOPD患者における頸動脈内中膜複合体肥厚度の関係	海老原明典	呼吸器内科学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
FXRD5の甲状腺癌細胞接着への関与とプロテオーム解析による関連蛋白質の検討	佐藤 温洋	内分泌内科学	1,200,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
複合型幹細胞シートを用いた放射線肺炎・線維症の治療	玉井 好史	放射線治療科学	1,100,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
非利き手でも施行できる二重課題の開発:分配性注意障害の臨床検査として	豊倉 穰	リハビリテーション科学	500,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
卵巣癌におけるアイソフォーム特異的TrkBシグナルのEMT関連機能解析	後藤優美子	産婦人科学	700,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
環境臭気分析による細菌同定法の開発	梅澤 和夫	救命救急医学	900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究	渡辺 哲	公衆衛生学	22,077,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
アレルギー性気管支肺真菌症の診断・治療指針確立のための調査研究	浅野浩一郎	呼吸器内科学	7,693,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
関節治療を加速する細胞シートによる再生医療の実現	佐藤 正人	整形外科学	38,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
RSウイルス気道感染予防によるアトピー型気管支喘息の発症抑制効果に関する研究	望月 博之	小児科学	7,608,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
慢性発症性血小板減少紫斑病(ITP)に対するリツギンマブの有効性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験	安藤 深	血液腫瘍内科学	900,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
牛等の動物由来の原料を用いた医療用新素材の開発(コラーゲンヒドロゲルを用いた関節軟骨再生医療に関する研究開発)	佐藤 正人	整形外科学	50,000	補 独立行政法人 農業生物資源研究所
マイクロ波による鳥類の呼吸・循環モニタ	中島 功	救命救急医学	550,000	補 独立行政法人 科学技術振興機構
ヒ尿細管細胞を用いたバイオ人工尿細管デバイスの試作開発	角田 隆俊	腎・代謝内科学	11,298,324	補 公益財団法人木原記念 横浜生命科学振興財団
脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬HMG-CoA還元酵素阻害薬の予防に関する研究	瀧澤 俊也	神経内科学	169,698	補 国立大学法人広島大学
脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬HMG-CoA還元酵素阻害薬の予防に関する研究	北川 泰久	神経内科学	190,477	補 国立大学法人広島大学
ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準	望月 博之	小児科学	4,246,000	補 独立行政法人 環境再生保全機構
新しい無線システムの使用形態で生じる電波への妊娠女性・胎児の曝露評価モデルの開発	丹羽 徹	画像診断学	2,140,000	補 独立行政法人 科学技術振興機構
脳疾患治療薬としてPAI-1阻害薬の開発	瀧澤 俊也	神経内科学	6,924,000	補 独立行政法人 医薬基盤研究所
研究用ヒ臍帯血幹細胞の収集・保存・提供	安藤 深	血液・腫瘍内科学	13,248,000	補委 文部科学省
抗血小板薬効予測を可能とする階層統合シミュレータの開発に向けたモデリング	後藤 信哉	循環器内科学	6,363,637	補 独立行政法人 理化学研究所
粒子線治療における腫瘍の線量応答性観測システムの開発	株木 重人	放射線治療科学	500,000	補 独立行政法人 国立がん研究センター
23-A-17高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究(リンパ系腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究)	安藤 深	血液・腫瘍内科学	1,000,000	補 独立行政法人 国立がん研究センター

計79件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行つた研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	松陰 崇	東海大学医学部医学科内科学系	"Rising Sun", Minimally Invasive TRI from Japan to the Rest of the World.	Journal of Vascular Medicine and Surgery#OMICS Publishing Group,Volume1, Issue 2#e104
2	川口 義明	東海大学医学部医学科内科学系	A case of a giant growing serous cystic neoplasm of the pancreas	Case Report in Oncology#KANGER,7#47-51
3	中川 知己	東海大学医学部医学科外科学系	A Case of Adolescent Lung Cancer Resectable by the Microthoracoscopic One-port Method	the tokai journal of experimental and clinical medicine#the tokai university school of medicine and the tokai medical association,vol.38 No.1 april 2013#21-23
4	清岡 崇彦	東海大学医学部医学科内科学系	A case of vasospastic angina in which the ergonovine provocation test with intracoronary isosorbide dinitrate and nicorandil was effective in the diagnosis of microvascular spasm	Cardiovasc Interv Ther.#Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics,#onlineDOI10.1007/s12928-013-0237-1
5	小川 真実	東海大学医学部医学科内科学系	A Comparison of Ionic, Monomer High Osmolar Contrast Media with Non-ionic, Dimer, Iso-osmolar Contrast Media In ERCP	The Tokai Medical Association#Tokai J Exp Clin Med,20;38(3)#109-13
6	檜山 明彦	東海大学医学部医学科外科学系	A complex interaction between Wnt signaling and TNF- α in nucleus pulposus cells.	Arthritis Res Ther.#BioMed Central Ltd,15(6)#R189.
7	斉藤 剛	東海大学医学部医学科外科学系	A fatal case of MAM-2201 poisoning	Forensic Toxicology#Springer,31#333-337
8	酒井 昭博	東海大学医学部医学科専門診療学系	A new technique to expose the hypopharyngeal space: The Modified Killian's method.	Auris Nasus Larynx#The Oto-Rhino-Laryngological Society of Japan, Inc.,Volume 41, Issue 2#207-210
9	佐藤 温洋	東海大学医学部医学科内科学系	A Novel Mutation (P236S) in the Succinate Dehydrogenase Subunit B Gene in a Japanese Patient with a Posterior Mediastinal Paraganglioma	Endocrine Pathology#Springer,24#144-148
10	水間 敏士	東海大学医学部医学科内科学系	A patient with Hashimoto's encephalopathy presenting with convulsive seizure alone as the initial symptom.	Clinical Medicine Insights Case Reports#Libertas Academica,6#75-77
11	平林 健	東海大学医学部医学科外科学系	A rare variant of inguinal hernia, interparietal hernia and ipsilateral abdominal ectopic testis, mimicking a spiegelian hernia. Case report.	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine#東海医学会,Vol38 No2#77-81
12	平澤 猛	東海大学医学部医学科専門診療学系	Alterations of Hypoxia-Induced Factor Signaling Pathway Due to Mammalian Target of Rapamycin (mTOR) Suppression in Ovarian Clear Cell Adenocarcinoma	International Journal of Gynecological Cancer#IGCS and ESGO,23(7)#1210-1218
13	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Ambulatory Telemedicine and Article 44 of the Emergency Life-Saving Technician's Act and Article 20 of the Medical Practitioner's Act	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)#The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13),2013#2131

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
14	中川 儀英	東海大学医学部医学科外科学系	Amplitude spectral area: predicting the success of electric shock delivered by defibrillators with different waveforms	Tokai J Exp Clin Med#東海医学会,2013 Jul 20;38(2)#P.71-76
15	市川 珠紀	東海大学医学部医学科専門診療学系	Anomalous inferior vena cava associated with horseshoe kidney on multidetector computed tomography	Clinical Imaging#Clinical Imaging,37(5)#889-894
16	後藤 信哉	東海大学医学部医学科内科学系	Antithrombotic Therapy for Prevention of Various Thrombotic Diseases	DRUG DEVELOPMENT RESEARCH#Wiley,74(8)#568-574
17	佐藤 正人	東海大学医学部医学科外科学系	Articular cartilage regeneration using cell sheet technology	The Anatomical Record#Wiley Periodicals, Inc.,297(1)#36-43
18	鈴木 俊之	東海大学医学部医学科外科学系	Biopsy specimens obtained 7 days after starting chemoradiotherapy (CRT) provide reliable predictors of response to CRT for rectalcancer.	International Journal of Radiation Oncology, Biology , Physics#ELSEVIER,85(5)#1232-1238
19	檜山 明彦	東海大学医学部医学科外科学系	Cell Signaling Pathways Related to PainReceptors in the Degenerated Disk	Global Spine Journal#Thieme E-Journals,3#165-174
20	高橋 若生	東海大学医学部医学科内科学系	Cerebral microbleeds on T2*-weighted images and hemorrhagic transformation after antithrombotic therapies for ischemic stroke.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases#Japanese Stroke Society,22#e528-e532
21	巽 亮子	東海大学医学部医学科内科学系	Cinacalcet HCl Induces Apoptosis and Proliferation of Parathyroid Cells in Human: Histological and Cytological Analyses	Nephron Clin Pract#Karger AG, Basel,124#224-231
22	小松 哲也	東海大学医学部医学科専門診療学系	Clinical characteristics of brain metastases from lung cancer according to histological type: Pretreatment evaluation and survival following whole-brain radiotherapy	Molecular and Clinical Oncology#Spandidos publication,volume1(4)#692-698
23	貞廣 莊太郎	東海大学医学部医学科外科学系	Clinical significance of and future perspectives for hepatic arterial infusion chemotherapy in patients with liver metastases from colorectal cancer.	Surgery Today#Springer,43(10)#1088-1094
24	西野 良	東海大学医学部医学科専門診療学系	Commensal microbiota modulate murine behaviors in a strictly contamination-free environment confirmed by culture-based methods	Neurogastroenterology Motility#Wiley and Sons Ltd,Volume 25, Issue 6#521-528
25	貞廣 莊太郎	東海大学医学部医学科外科学系	Comparison between oral antibiotics and probiotics as bowel preparation for elective colon cancer surgery to prevent infection: prospective randomized trial.	Surgery#Official Journal of the Society of University Surgeons, Central Surgical Association, and the American Association of Endocrine surgeonsImprint: MOSBY, ELSEVIER,155(3)#493-503
26	松嶋 成志	東海大学医学部医学科内科学系	Cranberry extract suppresses interleukin-8 secretion from stomach cells stimulated by Helicobacter pylori in every clinically separated strain but inhibits growth in part of the strains	JOURNAL OF FUNCTIONAL FOODS#ELSEVIER,5#P729-735
27	三上 幹男	東海大学医学部医学科専門診療学系	Current surgical principle for uterine cervical cancer of stages Ia2, Ib1, and IIa1 in Japan: a survey of the Japanese Gynecologic Oncology Group	International Journal of Gynecological Cancer#IGCS and ESGO,23(9)#1655-1662

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
28	増田 良太	東海大学医学部医学科外科学系	Delayed hemothorax superimposed on extrapleural hematoma after blunt chest injury: A Case Report	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine#The Tokai Medical Association,volume38 number3#97-102
29	緒方 信彦	東海大学医学部医学科内科学系	Delayed plaque protrusion after carotid artery stenting for the patient with symptomatic bilateral carotid artery stenosis	Cardiovascular Intervention and Therapeutics#Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics,#published online first, June 2013
30	星 昭夫	東海大学医学部医学科外科学系	Dorsal vein complex preserving technique for intrafascial nerve-sparing laparoscopic radical prostatectomy.	International Journal of Urology#Wiley,20#493-500
31	橋田 匡史	東海大学医学部医学科内科学系	Effective Pacing Therapy for Syncope with Severe Orthostatic Hypotension and Chronotropic Incompetence	JOURNAL OF CASE REPORTS#JOURNAL OF CASE REPORTS,3(2)#353-357
32	神田 茂孝	東海大学医学部医学科内科学系	Effects of a combination of losartan and hydrochlorothiazide in patients with hypertension and a history of heart failure.	Tokai J Exp Clin Med#Tokai J,39(1)#1-4
33	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Effort to Reduce a Useless Exposure Dose after the Accidents of the Fukushima Nuclear Power Plant - Disaster Communications -	The 14th China-Japan-Korea Joint Symposium on Medical Informatics (CJKMI 2013)#Japan Association for Medical Informatics,2013#29-32
34	高木 岳彦	東海大学医学部医学科外科学系	Elbow and forearm reconstruction in patients with ulnar dimelia can improve activities of daily living	J Shoulder Elbow Surg#Elsevier,23(3)#e68-72
35	清岡 崇彦	東海大学医学部医学科内科学系	Energy for myocardial Ca ²⁺ handling per beat increases with heart rate in excised cross-circulated canine heart.	Tokai J Exp Clin Med#Tokai Medical Association,39#51-8
36	酒井 昭博	東海大学医学部医学科専門診療学系	Evaluating the significance of level IIb neck dissection for hypopharyngeal cancer.	Head Neck# International Academy of Oral Oncology,vol 35, Issue12#1777-1780
37	新井 信	東海大学医学部医学科内科学系	Evaluation of Kampo education with a focus on the selected core concepts	Tokai J Exp Clin Med#東海医学会,38(1)#12-20
38	新井 信	東海大学医学部医学科内科学系	Evaluation of medical students using the qi, blood, and fluid system of Kampo medicine	Tokai J Exp Clin Med#東海医学会,38(1)#37-41
39	志村 信一郎	東海大学医学部医学科外科学系	External carotid-to-subclavian artery bypass in stent grafting of thoracic aorta.	Asian Cardiovasc Thorac Ann#The asian society for cardiovascular and thoracic surgery,21(5)#546-550
40	添田 宗市	東海大学医学部医学科外科学系	Functional Nerve-Vascular Reconstitution of the Bladder-Wall; Application of Patch Transplantation of Skeletal Muscle-Derived Multipotent Stem Cell Sheet-Pellets	Journal of Stem Cell Research and Therapy#OMICS Group,3(3)#142
41	貞廣 莊太郎	東海大学医学部医学科外科学系	Hematogenous metastatic patterns of curatively resected colon cancer were different from those of stage IV and autopsy cases.	Japanese Journal of clinical Oncology#Oxford University Press,43(4)#444-447

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
42	川田 浩志	東海大学医学部医学科内科学系	High Concentrations of L-Ascorbic Acid Specifically Inhibit the Growth of Human Leukemic Cells via Downregulation of HIF-1 α Transcription	PLOS ONE#Public Library of Science (PLOS),volume 8#e62717
43	小松 文成	東海大学医学部医学科外科学系	Identification of the internal carotid artery at the superior part of the cavernous sinus during endoscopic endonasal cavernous sinus tumor surgery.	Acta Neurochirurgica#Springer,156(3)#475-479
44	藤井 敏晴	東海大学医学部医学科内科学系	Impact of transport pathways on the time from symptom onset of ST-segment elevation myocardial infarction to door of coronary intervention facility	J Cardiol#Japanese College of Cardiology,13#S0914-5087
45	三上 克央	東海大学医学部医学科専門診療学系	Incident apathy during the first year after stroke and its effect on physical and cognitive recovery	The American Journal of Geriatric Psychiatry#The American Association for Geriatric Psychiatry,21(9)#848-854
46	三浦 正明	東海大学医学部医学科外科学系	Increase in antinociceptive effect of [Leu5]enkephalin after intrathecal administration of mixture of three peptidase inhibitors	Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine#Tokai Medical Association,38(2)#62-70
47	篠崎 法彦	東海大学医学部医学科内科学系	Initial results of transradial iliac artery stenting	Vasc Endovascular Surg#Peripheral Vascular Surgery Society,48(1)#51-54
48	厚見 秀樹	東海大学医学部医学科外科学系	Introducing simulation training to young medical staff marks a significant milestone in educational preparation for neurosurgical emergencies.	Neurosurg Emerg#Japan Society of Neurosurgical Emergency,18#117-126
49	正門 由久	東海大学医学部医学科専門診療学系	Is event-related desynchronization a biomarker representing corticospinal excitability?	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc#IEEE,2013#281-4
50	鈴木 啓二	東海大学医学部医学科専門診療学系	Is the heat-moisture exchanger (HME) useful when ventilating infants? — animal experiment	Journal of Paediatrics and Child Health#Perinatal Society of Australia and New Zealand,49#134
51	鈴木 啓二	東海大学医学部医学科専門診療学系	Is the heat-moisture exchanger(HME) useful when ventilating infants? — clinical study	Journal of Paediatrics and Child Health#Perinatal Society of Australia and New Zealand,49#134
52	新倉 直樹	東海大学医学部医学科	Latest biopsy approach for suspected metastases in patients with breast cancer.	Nature reviews clinical oncology#nature publishing group,10(12)#403-409
53	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Legal Interpretation of Face-to-Face Consultation to Perform Telemedicine-Article 44 of the Emergency Life-Saving Technicians' Act and Article 20 of the Medical Practitioners' Act -	The 14th China-Japan-Korea Joint Symposium on Medical Informatics (CJKMI 2013)#Japan Association for Medical Informatics,2013#22-23
54	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Lessons and Learned "Disaster Communications after the Accidents of the Fukushima Nuclear Power Plant"	The 9th International Conference on Multimedia Information Technology and Applications (MITA2013)#The 9th International Conference on Multimedia Information Technology and Applications (MITA2013),ISSN 1975-4736#124-128
55	梅園 朋也	東海大学医学部医学科内科学系	Long-term glycemic control in Japanese type 2 diabetes patients after switching treatment from twice-daily premixed insulin to once daily insulin glargine.	Tokai J Exp Clin Med#The Tokai Medical Association,38(1)#28-32

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
56	長 泰則	東海大学医学部医学科外科学系	Long-term outcomes and comparison after conventional coronary artery bypass grafting for left main disease between patients classified as percutaneous coronary intervention recommendation class II and III	Eur J Cardiothorac Surg#European association for cardio-thoracic surgery,45#431-437
57	長 泰則	東海大学医学部医学科外科学系	Long-term outcomes and risk analyses of coronary bypass for left main disease. (Webにて公開)	Asian Cardiovasc Thorac Ann#The asian society for cardiovascular and thoracic surgery,Epub ahead of print#
58	加川 建弘	東海大学医学部医学科内科学系	Meloxicam as an adjuvant to peginterferon- α -2a and ribavirin treatment for genotype 1 chronic hepatitis C:A randomized trial	Hepatology Resarch#JSH,Vol.43#925-932
59	湯原 宏樹	東海大学医学部医学科内科学系	Meta-analysis:the risk of venous thromboembolism in patients with inflammatory bowel disease	Alimentary Pharmacology and Therapeutics#Blackwell Publishing,37#953-962
60	幸谷 愛	東海大学医学部医学科内科学系	MicroRNA-126-mediated control of cell fate in B-cell myeloid progenitors as a potential alternative to transcriptional factors.	Proc Natl Acad Sci U S A.#National Academy of Sciences.,2013 Aug 13;110(33):#13410-5
61	清岡 崇彦	東海大学医学部医学科内科学系	Mid-ventricular obstructive hypertrophic cardiomyopathy with an apical aneurysm caused by vasospastic angina	Tokai J Exp Clin Med#Tokai Medical Association,39#29-33
62	菊池 真大	東海大学医学部医学科内科学系	Nonalcoholic Steato-hepatitis(NASH) as Fatal Fatty Liver;The next main target in the field of liver disease.	Health Evaluation and Promotion#Japanese Society of Health Evaluation and Promotion,40(4)#26-31
63	長 泰則	東海大学医学部医学科外科学系	Non-heart transplant surgical approaches with left ventricular restoration and mitral valve operation for advanced ischaemic cardiomyopathy. (Webにて公開)	Eur J Cardiothorac Surg#European association for cardio-thoracic surgery,Epub ahead of print#
64	石川 健二	東海大学医学部医学科外科学系	Optimal sutures for use in the abdomen: an evaluation based on the formation of adhesions and abscesses.	Surgery Today#Springer,43(4)#412-417
65	高木 岳彦	東海大学医学部医学科外科学系	Outcome of surgical reconstruction after traumatic total brachial plexus palsy	J Bone Joint Surg Am#The Journal of Bone and Joint Surgery, Inc.,95(16)#1505-12
66	小泉 淳	東海大学医学部医学科専門診療学系	Partial splenic embolisation using n-butyl cyanoacrylate:intraprocedural evaluation by magnetic resonance imaging	Eur Radio#Springer,23#1429-1442
67	中川 知己	東海大学医学部医学科外科学系	Periodic appearance and disappearance of a chest wall(serratus anterior development)cavernous hemangioma that was finally resected in a child	general thoracic and cardiovascular surgery#springer,volume61 number8 2013#469-472
68	湯原 宏樹	東海大学医学部医学科内科学系	Pharmacologic prophylaxis of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis: protease inhibitors and NSAIDs in a meta-analysis	J Gastroenterol#SpringerLink,49(3)#388-99
69	滝口 寛人	東海大学医学部医学科内科学系	Platypnea-orthodeoxia Syndrome Caused by a Latent Atrial Septal Defect	INTERNAL MEDICINE#日本内科学会,Vol.52(2013)No.16#p.1809-1811

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
70	滝口 寛人	東海大学医学部医学科内科学系	Platypnea-orthodeoxia syndrome due to latent atrial septal defect	Internal Medicine#Japanese Society of Internal Medicine,52-16#1809-1811
71	岡村 卓穂	東海大学医学部医学科外科学系	Pleomorphic Lobular Carcinoma with Lipid-Producing Activity:A Report of 2 Cases	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine#東海医学会,Vol. 38, No.3#103-108
72	松阪 泰二	東海大学医学部医学科内科学系	Podocyte injury enhances filtration of liver-derived angiotensinogen and renal angiotensin II generation.	Kidney International#Nature publishing group,85#1068-77
73	緒方 正史	東海大学医学部医学科専門診療学系	Post-vitrectomy Observation of Coat's Disease Associated with Exudative Retinal Detachment, Successfully Treated with Long-term Silicone Oil Tamponade	Tokai J Exp Clin#The Tokai Medical Association,20;39(1)#pp. 25-28
74	緒方 信彦	東海大学医学部医学科内科学系	Potential cause of delayed strokes following carotid artery stenting	Cardiovascular Intervention and Therapeutics#Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics,#published online first 12, May, 2013
75	小路 直	東海大学医学部医学科外科学系	Potential of metastin and metastin receptor as biomarkers for urological cancers	World Journal of Clinical Urology#Baishideng Publishing Group,2巻2号#p.10-14
76	池田 仁恵	東海大学医学部医学科専門診療学系	Predicting Perioperative Venous Thromboembolism in Japanese Gynecological Patients	PLOS ONE#PLOS ONE,February 2014 volume 9 Issue 2#February 2014volume 9Issue 2e89206
77	三上 克央	東海大学医学部医学科専門診療学系	Prevention of poststroke apathy using escitalopram or problem-solving therapy	The American Journal of Geriatric Psychiatry#The American Association for Geriatric Psychiatry,21(9)#855-862
78	大熊 壮尚	東海大学医学部医学科内科学系	Preventive effect of cyproheptadine hydrochloride in refractory patients with frequent migraine	SpringerPlus#SpringerOpen Journal,2#573
79	中村 雄介	東海大学医学部医学科外科学系	Pulmonary inflammatory pseudotumor observed by bronchoscopy and resected using video-assisted thoracic surgery	General Thoracic and Cardiovascular Surgery#特定非営利活動法人日本胸部外科学会,Volume 61・Number 4#234-237
80	西山 晃好	東海大学医学部医学科専門診療学系	Quetiapine reduces irritability and risk of suicide in patients with agitated depression.	Tokai journal of Experimental and Clinical Medicine#The Tokai Medical Association,Vol.38 No.2#93-96
81	田中 彩	東海大学医学部医学科外科学系	Randomized controlled trial comparing subcuticular absorbable suture with conventional interrupted suture for wound closure at elective operation of colon cancer	Surgery#Official journal of the Society of University Surgeons, Central Surgical Association, and the American Association of Endocrine SurgeonsImprint: MOSBY, ELSEVIER,155(3)#486-92
82	斉藤 剛	東海大学医学部医学科外科学系	Rapid determination of polar and non-polar pesticides in human serum, using mixed-mode C-C18 monolithic spin column extraction and LC-MS/MS	Chromatographia#Springer,76#781-789
83	貞廣 莊太郎	東海大学医学部医学科外科学系	Reduction in γ -glutamyl hydrolase expression is associated with response to uracil tegafur/leucovorin chemotherapy in patients with colorectal cancer.	Anticancer Research#International Institute of Anticancer Research,33(8)#3431-3438

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
84	藤井 敏晴	東海大学医学部医学科内科学系	Regional wall motion abnormality at the lateral wall disturbs correlations between tissue Doppler E/e' ratios and left ventricular diastolic performance parameters measured by invasive methods	J Echocardiogr#Japanese Society of Echocardiography,11#138-146
85	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Research and development on an ultra-compact bird-borne S-band transceiver	The 9th International Conference on Multimedia Information Technology and Applications (MITA2013)#The 9th International Conference on Multimedia Information Technology and Applications (MITA2013),ISSN 1975-4736#119-123
86	大貫 知英	東海大学医学部医学科内科学系	Response letter regarding the article "Significance of the presence of metabolic syndrome in patients with asymptomatic arteriosclerosis affecting the aorta and the cerebral, extra-cranial carotid and coronary arteries"	Intern Med.#日本内科学会, 2013;52(20)#2391
87	川口 義明	東海大学医学部医学科内科学系	Risk factors for proximal migration of biliary tube stents	WJG#Baishideng Publishing Group,Vol.20 5#1318-1324
88	小嶋 清一郎	東海大学医学部医学科内科学系	Senescent case of cholesterol ester storage disease that progressed to liver cirrhosis with a novel mutation (N250H) of lysosomal acid lipase gene	Hepatology Research#JSH,43#1361-1367
89	斉藤 剛	東海大学医学部医学科外科学系	SPME-GC-MS analysis of α -pyrrolidinovalerophenone in blood in fatal poisoning case	Forensic Toxicology#Springer,31#328-332
90	山崎 浩史	東海大学医学部医学科外科学系	Stem cell self-renewal factors Bmi1 and HMG2 in head and neck squamous cell carcinoma: clues for diagnosis.	Laboratory Investigation#Nature Publishing Group,93(12)#1331-1338
91	志村 信一郎	東海大学医学部医学科外科学系	Successful reversal of immediate paraplegia associated with repair of acute type A aortic dissection using cerebrospinal fluid drainage.	Interact Cardiovasc Thorac Surg#European association for cardio-thoracic surgery,17(6)#1051-1053
92	豊田 雅夫	東海大学医学部医学科内科学系	Survey of urinary albumin level and estimated GFR in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Diabetology International#SPRINGER,DOI : 10.1007/s13340-012-0099#DOI : 10.1007/s13340-012-0099-2
93	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Telecommunications for pandemics and nuclear disasters	ITU NEWS Magazine#ITU,N0.10 ISSN 1020-4148 #21-24
94	小路 直	東海大学医学部医学科外科学系	The current status of tailor-made medicine with molecular biomarker for patients with clear cell renal cell carcinoma	Clinical and Experimental Metastasis#Springer,31 巻1号#p.111-134
95	反町 隆俊	東海大学医学部医学科外科学系	The Striate Artery, Hematoma, and Spot Sign on Coronal Images of Computed Tomography Angiography in Putaminal Intracerebral Hemorrhage.	Stroke#Journal of the American Heart Association,44#1830-1832
96	鈴木 崇弘	東海大学医学部医学科専門診療学系	Topical dorzolamide for macular edema in the early phase after vitrectomy and epiretinal membrane removal	Clinical Ophthalmology#Dove Medical Press Ltd.,7#549-553
97	藤井 敏晴	東海大学医学部医学科内科学系	Transradial intervention for patients with ST elevation myocardial infarction with or without cardiogenic shock	Catheter Cardiovasc Interv#The Society for Cardiovascular Angiography and Interventions Foundation,83#E1-7

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
98	中島 功	東海大学医学部医学科外科学系	Ultra-Compact Bird-Borne S-band Transceiver Aiming to Search Low Pathogenic Avian Influenza	2013 IEEE 15th International Conference on e-Health Networking, Application and Services(Healthcom 2013)#IEEE,ISBN978-1-4673-5800-2#471-475
99	加川 建弘	東海大学医学部医学科内科学系	Ursodeoxycholic acid stabilizes the bile salt export pump in the apical membrane in MDCK II cells	J Gastroenterol#Springer,49 (5)#890-899
100	小路 直	東海大学医学部医学科外科学系	Value of metastin receptor immunohistochemistry in predicting metastasis after radical nephrectomy for pT1 clear cell renal cell carcinoma	Clinical and Experimental Metastasis#Springer,Volume 30, Number 5#p.607-614
101	松前 光紀	東海大学医学部医学科外科学系	Velocity and pressure gradients of cerebrospinal fluid assessed with magnetic resonance imaging.	Journal of Neurosurgery#American Association of Neurological Surgeons,Vol.120, No.1#pp.218-227
102	河野 太郎	東海大学医学部医学科外科学系	Wound dressing material containing lyophilized allogeneic cultured cells.	Cryobiology#Elsevier,66(3)#210-4

計 102件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
(注) 1	当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。			
2	報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。			
3	「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。			
4	「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。			
5	平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。			

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 開催日程・規程・委員一覧・各種指針等・委員会議題・研究一覧・書式	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 学校法人東海大学利益相反に関する規程 学校法人東海大学利益相反ポリシー	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 新規採用職員の入職時研修の一環として、全員に臨床研究と倫理について講義形式の研修を義務づけている。また、在職者対象に院内のe-learning形式による資料を提供し、受講を促している。	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各研修領域の研修プログラムに沿い、到達目標の達成を目指し、専門医取得に向けた臨床研修を実施

2 研修の実績

研修医の人数	107人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
望月 博之	小児科	教授	33年	
森本 克	小児科	講師	26年	
小澤 明	皮膚科	教授	40年	
寺地 敏郎	泌尿器科	教授	36年	
三上 幹男	婦人科	教授	30年	
和泉 俊一郎	産科	教授	36年	
河合 憲司	眼科	教授	34年	
大上 研二	耳鼻咽喉科	教授	27年	
國枝 悦夫	放射線治療科	教授	33年	
猪口 貞樹	救命救急科	教授	36年	
松前 光紀	脳神経外科	教授	42年	
持田 讓治	整形外科	教授	40年	
金子 明寛	歯科口腔外科	教授	30年	
金子 明寛	歯科	教授	30年	
鈴木 利保	麻酔科	教授	32年	
山崎 一	麻酔科	助教	21年	
浅野 浩一郎	呼吸器内科	教授	29年	
端山 直樹	呼吸器内科	講師	21年	
峯 徹哉	消化器内科	教授	36年	
伊莉 裕二	循環器内科	教授	28年	
豊田 雅夫	腎内分泌代謝内科	准教授	18年	
深川 雅史	腎内分泌代謝内科	教授	30年	
關 敏郎	腎内分泌代謝内科	准教授	22年	
瀧澤 俊也	神経内科	教授	33年	
鈴木 康夫	リウマチ内科	教授	38年	
岩崎 正之	呼吸器外科	教授	29年	
上田 敏彦	心臓血管外科	教授	37年	
上野 滋	小児外科	教授	36年	
高木 敦司	総合内科	教授	37年	
宮坂 宗男	形成外科	教授	30年	
正門 由久	リハビリテーション科	教授	32年	
橋本 順	画像診断科	教授	26年	

宮地 勇人	臨床検査科	教授	27年
中村 直哉	病理診断科	教授	29年
小川 吉明	血液腫瘍内科	准教授	25年
安藤 潔	血液腫瘍内科	教授	27年
徳田 裕	乳腺内分泌外科	教授	31年
安田 聖栄	消化器外科	教授	36年
小澤 壯治	消化器外科	教授	32年
松本 英夫	精神科	教授	31年
山本 賢司	精神科	教授	24年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">①静脈注射を単独で施行できる看護師の育成・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none">①2013年5月18日、7月20日、9月7日、11月16日、2014年1月18日、3月1日・6回・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none">①合計228人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">①現状分析から戦略・目標設定までのスキルを学ぶ②ホスピタリティ～選ばれる病院になるため～③感染症やサーベイランスに関する知識を習得し、日々の看護実践に活かす方法を学ぶ④シフリーダーナースの役割や位置づけ、リーダーシップについて学ぶ⑤トップリーダーの役割や業務、リーダーに必要なスキルについて学ぶ⑥モジュラーグループの目指すもの、モジュラーグループリーダーの位置づけ、役割について学ぶ⑦主任の役割と責任（看護単位責任者の補佐・代行業務）について学ぶ⑧副主任の役割と責任、副主任の活動について学ぶ・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none">①2014年2月27日・1回②2014年3月12日・1回③2013年10月23日・1回④2014年1月23日・27日・2回⑤2014年3月5日・1回⑥2014年3月11日・1回⑦2013年4月19日・1回⑧2013年4月26日・1回・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none">①38人②55人③68人④70人⑤54人⑥41人⑦4人⑧8人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	猪口貞樹
管理担当者氏名	廣瀬利美雄

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 ①病院日誌、②各科診療日誌、 ③処方せん、④手術記録、⑤看護記録 ⑥検査所見記録、⑦エックス線写真、 ⑧紹介状、⑨退院した患者に係る入院期 間中の診療経過の要約及び入院診療 計画書		①、②伊勢原総 務課 ③薬剤部 ④、⑤、⑥、⑦ 、⑧、⑨診療情 報管理課	①、②・・・年度別 ③・・・年度別 ④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨・・・詳細 は別紙
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	伊勢原人事課 臨床研修部事務室	年度別 処方箋の種類及び月別
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	伊勢原研究支援課	
	高度の医療の研修の実績	看護部	
	閲覧実績	伊勢原総務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	伊勢原総務課 薬剤部		
第規 一則 号第 一に 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 び第 九条 の二 十第 一項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全対策課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全対策課	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医療安全調査課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療機器安全管理責任者（診療技術部長）
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	廣瀬利美雄 (事務部長)	
閲覧担当者氏名	岡名秀夫 (診療情報管理課長)、石橋利昭 (総務課長)	
閲覧の求めに応じる場所	診療録閲覧室等	
閲覧の手続の概要		
診療記録の開示及び閲覧は、個人情報開示申請手続き後、主治医等院内の決裁後に、 閲覧あるいは写しの提供を行っている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 私たち教職員は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、安全な医療サービスを提供できるよう努める。2. 医療に係る安全管理のための委員会およびその他医療機関内の組織に関する基本的事項<ol style="list-style-type: none">(1) 医療に係る医療安全管理体制の確保及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置し、医療安全管理委員会の総括の下に、特定な事項を検討するため、各種の委員会並びに分科会を置く。(2) 医療に係る安全管理を行う部門として、医療監査部（医療安全対策課・医療安全調査課・院内感染対策室・放射線治療品質管理室）を置き、医療安全に係る企画立案・評価・職員の安全管理に関する意識の向上等組織横断的に指導するため専任医療安全管理者を医療安全対策課に配置する。3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 医療安全に係る研修を「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、以下の研修を実施する。 なお、新規採用、異動、出向終了者及び臨床研修医に対する研修は別途実施する。<ol style="list-style-type: none">(1) 医療安全に関する事項(2) 感染防止対策に関する事項(3) 医薬品関連に関する事項(4) 医療機器関連に関する事項(5) その他重大な事象が発生した事項4. 当院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 インシデントやアクシデントが発生した場合は、速やかに規定の様式により、医療監査部へレポートを提出する。提出されたレポートが診療録及び看護記録に基づき記載されているかを専任医療安全管理者が検証する。 なお、重要と思われるレポートについては、レポート検討会で検証し、医療安全管理委員会に諮る。さらに、対策が必要な事象については、RCA（根本原因分析）或いは事故調査委員会で検証する。5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 当該者の健康回復に全力を尽くすことを優先し、可及的速やかに上司に連絡し判断を仰ぎ、必要に応じて院内に緊急情報を発信し処置を行なう十分な人員を確保する。6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 （患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む）医療安全対策マニュアルは、当院のホームページ及び病院情報システム端末に掲載し、いつでも情報が取得できる環境を構築し公開する。また、患者からの医療の安全管理及び安全対策等についての質問等があれば積極的に情報を開示する。7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 患者・家族からの相談に適切に応じる体制を確保するために、総合相談室に相談窓口を設置し、安全管理体制の確保について、関係部署に改善等の指導をする。8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 各部署にリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会で決定した医療安全に係る事項を所属員へ周知させる。また、安全情報としてセイフティ・トピックスの発行並びに各種ガイドラインの策定を行い教職員に周知する。	

② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 委員構成（委員：30名、事務局：3名） 医療監査部長（委員長）、専任医療安全管理者、医師（内科学系・外科学系・専門診療学系）、臨床研修部、看護部（部長、次長、医療安全対策委員）、薬剤部、医薬品安全管理責任者、診療技術部、医療機器安全管理責任者、院内感染対策室、専任院内感染対策責任者、医療機器・呼吸ケア管理センター、事務（医療監査部、総務課、用度管理課、医事課、診療情報管理課、）</p> <p>2. 医療安全管理委員会の開催状況 実施：平成25年4月8日、平成25年5月13日、平成25年6月10日、平成25年7月8日、平成25年8月12日、平成25年9月9日、平成25年10月11日、平成25年11月11日、平成25年12月9日、平成26年1月14日、平成26年2月10日、平成26年3月10日</p> <p>3. 主な内容 (1) 提出されたインシデント／アクシデントレポートの検討 (2) 医療に係る医療安全の諸規程の整備 (3) 重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置 (4) 重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施 (5) 医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行 (6) 医療安全対策チーム設置の検討 (7) 東海大学医学部付属病院群への医療安全に関する周知事項の審議 (8) リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施 (9) 医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定 (10) 医療安全月間の企画 (11) 医薬品の安全管理体制及び医療機器の保守点検・安全使用に関する体制の確保について医薬品関連分科会並びに医療機器関連分科会で策定した事項を協議する (12) 院内感染防止対策委員会で策定される院内感染対策の体制の確保について連携する (13) 厚生労働省への提出事象の分類 (14) 厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出 (15) 前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 第1回医療安全・感染防止セミナー（医療安全の日セミナー）：平成25年4月9日 「感染症報告書と発生届について」「医療安全と法医学」</p> <p>2. 第2回医療安全・感染防止セミナー：平成25年5月14日 「公文書としての診療録記載方法」「鳥インフルエンザ対策」「風疹の診断」</p> <p>3. 第3回医療安全・感染防止セミナー：平成25年6月6日 「重大医療事故発生時の初期対応」「風しん情報と当院における職業感染防止への取り組み」「医薬品安全管理」</p> <p>4. 第4回医療安全・感染防止セミナー：平成25年7月10日 「セキュリティ対策－自分の身を守るためには」「当院における褥瘡対策の現状／ずれの現状と対策」「この夏、救命救急センターでこれが流行る！？」</p> <p>5. 第5回医療安全・感染防止セミナー：平成25年9月6日 「HIV曝露対策」「重大医療事故発生時の初期対応・対策フローの改訂及び現場保全チェックリストの作成」「NPPV用マスク使用時の注意・酸素ボンベの使用手順」「災害時多数傷病者受け入れ時のトリアージについて」</p> <p>6. 第6回医療安全・感染防止セミナー：平成25年10月7日 「シリンジ採血検体の取り扱いの注意点」「オピオイドの安全な使用について」「薬剤耐性アシネトバクター多発対応」</p>	

7. 第7回医療安全・感染防止セミナー：平成25年11月12日
「耐性菌対策と口腔ケア」「より安全な輸血療法を目指して」「緊急気道確保」
8. 第8回医療安全・感染防止セミナー：平成26年1月9日
「八王子病院における褥瘡対策の現状」「アシネトバクター多発への対応」「個人情報保護に関する注意点－最近の事例から－」
9. 第9回医療安全・感染防止セミナー：平成26年2月13日
「感染を広げない！呼吸関連物品の管理」「暴言、暴力への現状と対応」
「2013年度医療安全対策のまとめ」
10. 第10回医療安全・感染防止セミナー：平成26年3月5日
「規制医薬品安全管理状況」「注射/輸血、内服」
「創感染、人工呼吸器関連、尿路感染、手指衛生、血流感染、環境整備、標準予防策、医材・針刺し切創」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 各年度のレポート報告提出枚数
 - 1)平成11年度：2,892枚 2)平成12年度：5,534枚 3)平成13年度：5,132枚
 - 4)平成14年度：5,179枚 5)平成15年度：5,634枚 6)平成16年度：5,517枚
 - 7)平成17年度：5,398枚 8)平成18年度：5,416枚 9)平成19年度：5,685枚
 - 10)平成20年度：6,064枚 11)平成21年度：6,173枚 12)平成22年度：6,060枚
 - 13)平成23年度：5,263枚 14)平成24年度：4,845枚 15)平成25年度：5,277枚
 2. 発生した事故等の医療安全管理委員会への報告
インシデント/アクシデントレポート取扱い基準に則り、月別一覧表を作成し、特に検討等が必要な事象を（医療監査部長・次長、専任医療安全管理者）が抽出して、レポート検討会に諮る。
レポート検討会で検討された対策案等を医療安全管理委員会へ具申している。
 3. 事故等の収集・分析による組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価と情報の共有
 - (1) 月別にインシデント/アクシデントレポートを各事象（CV関連・気道関連・ドレーン関連・化学療法関連・医療機器関連・転倒転落関連・医薬品関連）ごとに統計・解析し、各種委員会（病院運営会議・診療科長会・診療協議会）、RM会、セミナー等で注意を喚起している。
 - (2) レポート検討会で提案された対策案等を医療安全管理委員会で審議し、さらに検討・対策が必要な事象は、根本原因分析(RCA)・各分野の医療安全対策チーム（CV関連・気道関連・ドレーン関連・医薬品関連・医療機器関連・転倒転落関連・肺血栓塞栓症関連・抗凝固薬服用中止関連・予期せぬ急変・救急カート）で対策案等を検討している。
 - (3) 上記で検討された対策案等は、各種委員会（病院運営会議・診療科長会・診療協議会）・RM会・セミナー・セイフティ・トピックス等で周知している。
 4. 重大事故発生時の病院管理者への報告及び再発防止策（背景要因・根本原因分析）
 - (1) 重大な事故が発生した場合は、手順に従い、速やかに病院長に報告する。また、インシデント/アクシデントレポートとは別に、詳細な事例報告書を24時間以内に提出させ、病院長へ報告している。
 - (2) 事象に応じて、根本原因分析(RCA)・事故調査委員会・事故検証委員会・外部評価委員会を立ちあげ再発防止策を講ずる。
 5. 診療記録等監査
診療録等の記載から医療過程においてどのような影響があったか。また、診療録記載以外にも、医療の安全や患者満足度、適正な医療の実施などの評価を隔月で6回/年、診療記録等監査として定期開催している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無

- ・ 所属職員：専任（6名：非常勤1名含む）兼任（3名）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 医療監査部の事務に関する事。
 2. 医療安全教育の事務に関する事。
 3. 医療安全セミナーの実施運営に関する事。
 4. 医療安全の各種委員会の事務に関する事。
 5. 医療の安全と質の確保に関する事。
 6. 医療安全レポートに関する事。
 7. 医療安全に関する官公庁への届出及び報告に関する事。
 8. 診療記録等監査の事務に関する事。
 9. その他医療安全の事務に関する事。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方 私たち東海大学医学部附属病院において医療に従事する者は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、患者診療における院内感染防止対策のため努力する。2. 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本事項 院内感染防止対策委員会は、「医療法施行規則：平成19年4月1日付け改正公布」「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律：いわゆる感染症法」と「医療法」および院内感染対策管理のための施設基準に基づき、東海大学医学部附属病院（以下「病院」という）における病院内感染者の取り扱いおよび管理に関する事項を定め、病院感染による事故の発生を防止し、併せて病院内環境の保全を図ることを目的として設置する。すなわち、本委員会の目的は、病院における院内感染の実情を把握し、その発生・蔓延を防止する対策を立案して、医学部長および病院長にその実施を提言することにある。3. 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 感染対策担当者および感染対策チームは、施設全体の職員（委託業者を含む）を対象として、定期的に院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。新採用職員（途中採用者を含む）において、採用時に随時、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。(2) 感染対策担当者は、院内感染の増加が疑われる、あるいは確定した場合、介入の手段として、部署（診療単位）や職種を限定して、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。(3) リンクドクターとリンクナースは連携して、各診療領域における一般医療スタッフに対して感染防止対策上の問題認識向上と啓発指導を図る。4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。(2) 感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護責任者から感染症患者発生報告書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。(3) 「感染症法」に規定される届出は、最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染の発生動向の監視（サーベイランス）を実施し、動向の分析に基づき、対策を立案し、改善のための方策を実施する（コンサルテーション）。(2) 院内感染発生時の対応手順を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生時には迅速に対応できるようにする。6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 院内感染対策のための指針（マニュアル）は、全職員が随時参照できるように、病院情報システム用端末の「掲示板」に掲載してある。また、指針（マニュアル）は、患者が閲覧できるように、病院のホームページにも掲載してある。指針の詳細についての質問があれば、積極的に開示する旨、マニュアルの「序論」に掲載してある。	

<p>7. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のための必要な基本方針</p> <p>(1) 院内感染対策の推進のために必要な方策を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生を未然に防ぐ、また発生時に蔓延を防ぐようにする。</p> <p>(2) 院内感染対策室（院内感染担当者）では、感染症の発生状況を把握し、発生状況で重要な動向や患者発生については、病院全体で情報を共有化するよう情報提供する。</p>	
<p>② 院内感染対策のための委員会の開催状況</p>	<p>年12回</p>
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 委員の構成（委員：17名、事務局：4名） 院内感染防止対策委員長、委員医師6名（内科学系、外科学系、専門診療学系）、事務部3名、看護部3名、薬剤師1名、栄養科1名、臨床検査技師2名、事務局4名（院内感染対策室）</p> <p>2. 主な内容</p> <p>(1) 感染症の地域流行などの感染症情報の把握と提供に関すること。</p> <p>(2) 院内感染発生の監視・疫学調査および情報の提供に関すること。（細菌培養・薬剤感受性などの情報）</p> <p>(3) 感染症発生の届出に関する業務およびその情報の保管に関すること。</p> <p>(4) 病院環境汚染の把握、医薬品や医療機器汚染の監視・指導に関すること。</p> <p>(5) 抗菌薬・消毒剤の使用状況の把握・適正使用の指導に関すること。</p> <p>(6) 院内の感染対策や感染制御の立案・実行・評価に関すること。（院内感染防止対策マニュアル）</p> <p>(7) 感染対策全般に関するコンサルテーションや指導・教育に関すること。</p> <p>(8) 院内感染防止対策に係わる経費算定・管理に関すること。</p> <p>(9) その他、病院長の指示する業務、あるいは委員会決定事項の遂行に関すること。</p> <p>3. 院内感染防止対策委員会の開催状況 実施：平成25年4月23日、平成25年5月28日、平成25年6月25日、平成25年7月23日、平成25年8月27日 平成25年9月24日、平成25年10月22日、平成25年11月26日、平成25年12月24日、平成26年1月28日 平成26年2月25日、平成26年3月25日</p>	
<p>③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況</p>	<p>年10回</p>
<p>・ 研修の主な内容：実施した研修会</p> <p>1. 第1回医療安全・感染防止セミナー（医療安全の日セミナー）：平成25年4月9日 「医療安全と法医学」</p> <p>2. 第2回医療安全・感染防止セミナー：平成25年5月14日 「鳥インフルエンザ対策」</p> <p>3. 第3回医療安全・感染防止セミナー：平成25年6月6日 「風しん情報と当院における職業感染防止への取り組み」</p> <p>4. 第4回医療安全・感染防止セミナー：平成25年7月10日 「この夏、救命センターでこれが流行る！？」</p> <p>5. 第5回医療安全・感染防止セミナー：平成25年9月6日 「災害時多数傷病者受け入れ時のトリアージについて」</p> <p>6. 第6回医療安全・感染防止セミナー：平成25年10月7日</p>	

「薬剤耐性アシネトバクター多発対応」

7. 第7回医療安全・感染防止セミナー：平成25年11月12日
「耐性菌対策と口腔ケア」
8. 第8回医療安全・感染防止セミナー：平成26年1月9日
「アシネトバクター多発への対応」
9. 第9回医療安全・感染防止セミナー：平成26年2月13日
「感染を広げない！呼吸関連物品の管理」
10. 第10回医療安全・感染防止セミナー（看護部合同報告）：平成26年3月5日
「手術部位感染、手指衛生サーベイランス、尿路カテーテル関連感染、環境整備、中心静脈カテーテル関連感染、人工呼吸器関連感染、標準予防策・経路別予防策、医材・針刺し切創予防」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 病院における発生状況の報告等の整備

- (1) 感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。
- (2) 感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護責任者から感染症患者発生報告書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。
- (3) 「感染症法」に規定される届出は、最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。

2. その他の改善のための方策の主な内容

耐性菌発生時の病棟別、診療科別動向調査を行い、薬剤使用状況との解析による各部署へのフィードバック、さらに担当医に対するコンサルテーションや病棟ラウンドによる感染防止対策。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 0 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 研修医に対する医薬品関連の講話 (1回)(2) 新人看護師に対する講義 (1回)(3) 救命救急センターにおける麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理について (12回)(4) 中央手術室における重点管理薬品の管理について (7回)(5) 医療安全・感染防止セミナー<ul style="list-style-type: none">① 規制医薬品について (1回)② 医薬品安全管 (1回)(6) 全職員を対象とした「医薬品知識確認のeラーニング」(1回)(7) N-ICU・6B病棟看護師向け知識 (12回)(8) 抗菌薬について (1回)(9) 抗MRSA薬について (TDMも含めて) (1回)(10) 持参薬鑑別やTDMをはじめとする病棟薬剤師の業務について (1回)(11) チーム医療の中で薬学的マネージメント (1回)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (①・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 医薬品の採用審査に伴う薬事委員会への関与 (月 1 回)② 採用薬品情報・試用薬品情報の発行 (月 1 回)③ 採用中止情報の発行 (8回)④ 病棟・外来に定数保管されている医薬品の保管状況および品質管理 (年 3 回)⑤ 抗がん剤のレジメン管理および混合調製 (毎日)⑥ 持参薬チェックおよび再調剤 (毎日)⑦ 医薬品集および禁忌薬剤集の作成 (年 1 回)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 医薬品・医療機器等安全情報の配信 12回)(2) 「効能効果」「用法用量」の追加、変更、削除に関するインフォメーションの発行 11回)(3) DIニュースの発行 (7回)(4) 安全性速報の通知 (2回)(5) 医療安全情報の配信 (32回)	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>*全体研修</p> <ul style="list-style-type: none">・医療安全・感染防止セミナー 第5回セミナー NPPV用マスク使用時の注意 : 平成25年9月6日 酸素ポンペの使用手順 <p>*RM会</p> <ul style="list-style-type: none">第3回 放射線技術科における医療安全活動 : 平成25年9月27日 <p>*臨床研修医セミナー</p> <ul style="list-style-type: none">第6回セミナー 呼吸器管理について : 平成25年11月14日 <p>*その他</p> <ul style="list-style-type: none">・必要に応じて当該部署にて研修を実施 <p>研修の主な内容 : ①有効性・安全性に関する事項 ②使用方法に関する事項 ③保守点検に関する事項 ④不具合が発生した場合の対応 ⑤法令遵守すべき事項</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 ((有)・無)・ 保守点検の主な内容 :<ol style="list-style-type: none">1) 人工心肺装置及び補助循環装置 : 年1回実施2) 人工呼吸器 : 年2回実施3) 血液浄化装置 : 年2回実施4) 除細動装置 : 年1回実施5) 閉鎖式保育器 : 年1回実施6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 : 年4回実施7) 診療用放射線照射装置 : 年2回実施<ol style="list-style-type: none">①動作確認②精度確認③磨耗・損耗箇所確認④安全機構確認	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容 :<ol style="list-style-type: none">① 医療機器使用時における禁忌情報を“医療安全基本マニュアル(携帯版)”に追加掲載② 医療機器関連分科会の指示のもと医療機器全般の不具合、使用、管理方法等について、医療機器安全対策チームで安全性等について検討している③ 医療機器関連分科会の下部組織として小委員会を立ち上げ、医療機器の管理状況、研修の進捗状況を把握するための体制を維持	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
・日本医療機能評価機構	平成 21 年 11 月 22 日
・日本私立医科大学病院医療安全相互ラウンド	平成 26 年 1 月 24 日

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
病院ホームページ上に医師紹介、診療内容、診療実績、各種講演会・講座を公開している。 また、近隣医療機関に診療案内情報誌を発送している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
【チーム医療の体制について】	
特定機能病院として様々な高度医療を提供している。高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを有し、神奈川県湘南～県西地域における急性期医療の中核施設としての役割を担うとともに、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリを運用している。さらに地域がん診療連携拠点病院として悪性腫瘍に対する専門的診療を行っている。	
頭頸部腫瘍センターでは頭頸部腫瘍患者の診療を耳鼻咽喉科や歯科口腔外科といった診療科枠を超えて、複数の診療科・職種で協力して、診療にあたっている。	
呼吸ケアチームでは、診療科・職種の壁を取り去り、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士等で回診を行い、共同して人工呼吸器の早期離脱を目指している。また、院内における人工呼吸管理に関する安全の確保、知識・技術の向上に努めている。	
がん診療では、がん診療に携わる診療科と協力し、がん患者とそのご家族が苦痛なくがん治療を受けられるように薬物療法による身体及び精神的な苦痛の緩和に努めている。また、身体的・精神的な苦痛緩和のみならず、がん治療に伴う社会的不安や退院後の在宅がん診療を少しでも苦痛なく行えるよう、社会福祉士により構成される総合相談室や在宅医療室の看護師と連携してこれらの問題解決に努めている。	